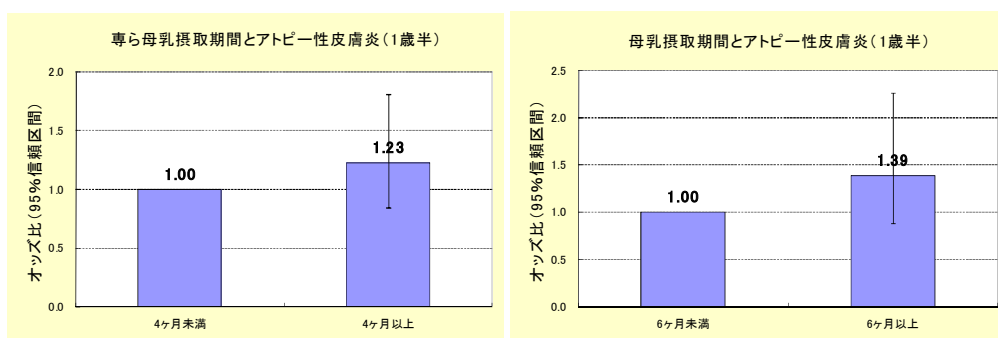


大阪母子保健研究 16-24 ヶ月時追跡データの結果 母乳摂取とアトピー性皮膚炎のリスクとの関連

背景：母乳摂取とアトピー性皮膚炎との関連は結論が得られていません。日本の2つの横断研究では、正の関連を報告していますが、子がアトピー性皮膚炎だったので母乳を長く与えたことによる因果の逆転の結果なのかもしれません。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査、第1回と第2回追跡調査（生後16-24 ヶ月時）に参加した763名を対象としました。専ら母乳期間が生後4 ヶ月未満の子供に比較して、4 ヶ月以上の子供のアトピー性皮膚炎（ISAAC）のオッズ比を算出しました。さらに、部分母乳期間6 ヶ月未満の子供に比較して、6 ヶ月以上の子供のオッズ比を算出しました。因果の逆転の影響を除くため、第1回追跡調査でアトピー性皮膚炎疑いと判定された64名を除いた解析も行いました。母親の年齢、年収、両親の教育歴、両親のアレルギー既往、妊娠中の母親の喫煙、受動喫煙、屋内ペット、追跡調査時期、年上兄弟数、性別を補正しました。

結果：アトピー性皮膚炎の累積罹患率は18.6%でした。専ら母乳4 ヶ月未満に対する4 ヶ月以上の補正オッズ比及び部分母乳6 ヶ月未満に対する6 ヶ月以上の補正オッズ比はそれぞれ1.23と1.39と有意ではありませんでした。第1回追跡調査でアトピー性皮膚炎疑いの64名を除いた解析では、それぞれの補正オッズ比が1.27と1.66 (95% CI: 0.99-2.92)で、6 ヶ月以上の部分母乳でリスクを高める傾向が認められました。両親ともアレルギー疾患の既往のない群でのみ、それぞれの補正オッズ比が2.41と3.39で有意にリスクを高めました。



結論：全体の解析では母乳摂取とアトピー性皮膚炎との間に関連は認めませんでした。

出典： Miyake Y, Tanaka K, Sasaki S, Kiyohara C, Ohya Y, Fukushima W, Yokoyama T, Hirota Y. Breastfeeding and atopic eczema in Japanese infants: The Osaka Maternal and Child Health Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2009; 20: 234-241.